

【4-8 定性的システマティックレビュー】

CQ	3	照射法として加速乳房部分照射は勧められるか
P	乳癌に対する乳房温存手術後	
I	APBI	
C	全乳房照射	
臨床的文脈		乳癌の乳房温存手術後は、全乳房照射を行うことはコンセンサスが得られている。加速乳房部分照射の有効性と安全性について検討する。
O1	局所再発	
非直接性のまとめ	Cochrane review 2016と同様の6編のRCTをレビューした。年齢、DCISの有無、Tstageに関して対象が各々異なるが、重大な非直接性はない。	
バイアスリスクのまとめ	盲検化は困難であるが、重大なバイアスリスクは存在しない。TARGIT-AIに関しては観察期間が短いことからバイアスありとした。	
非一貫性その他のまとめ	全乳房照射に比べて、IORTは不良で、EBRTは良好な傾向があり、やや一貫性は乏しいと判断し($I^2=46\%$)、ランダム効果モデルでの解析を行った。	
コメント	全乳房照射に比べて、IORTは不良で、EBRTは良好な傾向があったが、全体では有意差をみとめなかった。(RR1.87(0.95-3.70)、 $p=0.07$)	
O	整容性	
非直接性のまとめ	Cochrane review 2016と同様の5編のRCTに新たな1編のRCTを加えて、レビューした。年齢、DCISの有無、Tstageに関して対象が各々異なるが、重大な非直接性はない。	
バイアスリスクのまとめ	盲検化は困難であるが、重大なバイアスリスクは存在しない。TARGIT-AIに関しては観察期間が短いことからバイアスありとした。	
非一貫性その他のまとめ	全乳房照射と比べて、3D-CRTの方が不良という報告(特に、Olivotto2013 OR2.71(1.92-3.82))、Brachytherapyの方が良好という報告(Polgar2013 OR0.40(0.23-0.72))などが混在しており、非一貫性ありと判断し($I^2=87\%$)、ランダム効果モデルでの解析を行った。	
コメント	全乳房照射と比べて、3D-CRTの方が不良という報告、Brachytherapyの方が良好という報告などが混在しているが、全体としては有意差を認めなかった。(RR0.99(0.55-1.78)、 $p=0.97$)	
O	晩期皮膚障害	
非直接性のまとめ	Cochrane review 2016と同様の2編のRCTに新たな1編のRCTを加えて、レビューした。年齢、DCISの有無、Tstageに関して対象が各々異なるが、重大な非直接性はない。	
バイアスリスクのまとめ	盲検化は困難であるが、重大なバイアスリスクは存在しない。	
非一貫性その他のまとめ	非一貫性は認められず($I^2=0\%$)、固定効果モデルでの解析を行った。	
コメント	APBI群の方がわずかに良いが、有意差を認めなかった。(RR0.60(0.34-1.07)、 $p=0.08$)	
O	脂肪壊死	
非直接性のまとめ	Cochrane review 2016と同様の2編のRCTに新たな1編のRCTを加えて、レビューした。対象年齢、DCISの有無、Tstageに関して各々異なっているが、重大な非直接性はない。	
バイアスリスクのまとめ	盲検化は困難であるが、重大なバイアスリスクは存在しない。	
非一貫性その他のまとめ	全体としてはコントロール群(全乳房照射)の方が良好となったが、やや一貫性は乏しいと判断した($I^2=26\%$)。解析は固定効果モデルで行った。	
コメント	有意に全乳房照射の方が良好であった。(RR1.41(1.05-1.90)、 $p=0.02$)	
O	遠隔再発	
非直接性のまとめ	Cochrane review 2016と同様の4編のRCTをレビューした。年齢、DCISの有無、Tstageに関して対象が各々異なるが、重大な非直接性はない。	
バイアスリスクのまとめ	盲検化は困難であるが、重大なバイアスリスクは存在しない。	
非一貫性その他のまとめ	非一貫性は認められなかった($I^2=0\%$)。解析は固定効果モデルで行った。	
コメント	APBI群の方がわずかに良いが、有意差を認めなかった(RR0.89(0.62-1.28)、 $p=0.53$)	
O	全生存	
非直接性のまとめ	Cochrane review 2016と同様の5編のRCTをレビューした。年齢、DCISの有無、Tstageに関して対象が各々異なるが、重大な非直接性はない。	
バイアスリスクのまとめ	盲検化は困難であるが、重大なバイアスリスクは存在しない。TARGIT-AIに関しては観察期間が短いことからバイアスありとした。	
非一貫性その他のまとめ	LiviらによるIMRTを用いたAPBIの結果のみ、APBI群の結果が特に良好(RR0.14(0.02-1.15))であり、その他の報告は全乳房照射群もAPBI群もほぼ同じ結果であった。このため、一貫性はやや乏しいと判断した($I^2=31\%$)。解析は固定効果モデルで行った。	
コメント	APBI群の方がわずかに良いが、有意差を認めなかった(RR0.84(0.67-1.06)、 $p=0.14$)	